

令和7年度 看護師職能Ⅰ委員会 活動報告

■委員名

委員長：松本ゆかり

副委員長：高濱和美

委員：高橋紀子 田代真理 吉田由香 松尾幸恵 西岡 綾 服部陽子
 遠藤さなゑ 芦田真知子 西田厚美 佐藤隆平 貝川実寿恵

■活動目標

1. 看護師地域包括ケアシステムの充実に向けた看護の連携・協働を推進
2. 看護師職能Ⅰ領域、看護師の実践能力向上への取り組み

■委員会開催状況と検討内容

回	開催日	出席者	内容
1	令和7年4月18日	12名	・令和7年度活動計画検討 ・令和6年度看護管理者訪問看護研修実績報告書作成
2	令和7年5月16日	11名	・令和7年度保健師助産師看護師合同職能集会運営打ち合わせ ・准看護師に係る教育ニーズについて意見交換 ・若手看護師支援「新人先輩看護師集まれ二人三脚」交流会企画 ・看護師職能ⅠⅡ合同交流会「地域で繋ぐ意思決定支援」企画検討
3	令和7年7月5日	12名	・令和7年度委員会運営方針 活動計画 ・交流会企画検討
4	令和7年8月29日	12名	・全国職能委員長会議報告 ・若手看護師支援交流会企画 ・看護師職能ⅠⅡ合同交流会研修企画
5	令和7年8月30日	11名	・若手看護師支援交流会 講師打ち合わせ（WEB） ・「基礎・臨床連携」に関するアンケート調査内容検討 ・保健師助産師看護師三職能交流会運営準備
6	令和7年9月21日	12名	・「新人と先輩看護師集まれ二人三脚」交流当日準備 ・看護師職能ⅠⅡ合同交流会準備：アンケート作成等
7	令和7年10月4日	11名	・看護師職能ⅠⅡ合同交流会「地域でつなぐ意思決定支援」当日準備 ・若手看護師支援交流会 アンケート集計および分析 ・地区別職能委員長会議議題に係る情報収集 ・令和7年度活動報告方向性検討
8	令和7年11月21日	13名	・令和7年度地区別職能委員長会議報告 ・看護師職能ⅠⅡ合同交流会 終了後アンケート集計および評価 ・令和7年度活動報告作成 ・令和8年度活動計画 方向性検討
9	令和8年1月16日	11名	・令和8年度活動計画 方向性検討
10	令和8年2月20日	11名	・令和8年度活動計画検討 - 個人情報関連研修企画検討/看護補助者取り組み方向性検討
11	令和8年3月23日	11名	・全国職能委員長会議報告 ・令和7年度活動報告 令和8年度活動計画 最終提出準備 ・令和8年度 個人情報関連研修講師打ち合わせ

■活動内容	1. 保健師助産師看護師職能集会 日 時：令和7年6月19日 9:30～12:00 場 所：兵庫県看護協会会館（オンライン併用） 内 容：令和6年度看護師職能Ⅰ委員会活動報告 令和7年度看護師職能Ⅰ委員会活動計画 特別講演 テーマ：「ネガティブ・ケイパビリティを身につけて、不確実な時代を 生き抜こう！」 ～モヤモヤを宝に変えて自分を大切に働こう～ 講 師：コミュニケーションサロン 勇気のしずく 代表 長谷静香 氏 参加者：129名（会場82名 オンライン47名） 2. 保健師助産師看護師職能合同交流会 日 時：令和7年8月30日 13:30～16:00 場 所：兵庫県看護協会会館（オンライン併用） テーマ：「地域を結ぶ看護職の力」 ～災害時における人工呼吸器装着者（児）への支援～ 講 師：あかし保健所 健康推進課 草野一恵 氏 参加者：129名（会場66名 オンライン63名） 3. 第3回 新人・先輩看護師集まれ！二人三脚交流会 日 時：令和7年9月21日 13:30～16:30 場 所：兵庫県看護協会会館 講 師：愛媛大学医学部附属病院総合臨床研修センター 助教 内藤知佐子 氏 参加者：27組54名（新人・先輩看護師） オブザーバー（施設研修企画担当）6施設7名 4. 看護師職能ⅠⅡ委員会合同交流会 日 時：令和7年10月4日 13:30～16:30 場 所：兵庫県看護協会会館（オンライン併用） テーマ：「地域でつなぐ意思決定支援」～最期まで自分らしく生きるために～ 講 師：呼吸器内科医 緩和ケア認定医 竹中かおり 氏 参加者：63名（会場42名 オンライン21名） 5. 看護管理者の訪問看護研修の推進 期 間：令和7年7月～令和8年1月 参加者：看護管理者24名
■活動の評価	1. 地域包括ケアシステムの充実に向けた看護の連携・協働を推進 1) 保健師助産師看護師職能合同交流会 災害時における各職能の役割や連携のあり方を再考する講演・交流会であり、病院領域の災害対策や地域での対応を見直す契機となった。 2) 看護師職能ⅠⅡ委員会合同交流会開催 地域包括システムにおける意思決定支援の重要性を理解し、地域連携や多職種との協働促進を目的とし、呼吸器内科医・緩和ケア医の竹中かおり氏を招聘し講演会を実施した。地域での課題共有と連携強化を目的に、地域別にディスカッションを実施した。意思決定支援の場における看護師の立場や悩みに理解を示す竹中医師に

	よる事例を含む講演では、参加者の理解が深まった。研修後アンケートでは85%が「とても満足」と回答した。また、グループワークでは「ACPにおいて多職種や地域連携の重要性、継続の必要性がよく理解できた」「普段関わる事の少ない病棟師長や地域連携室担当者と交流でき良かった」「業務内容や立場の異なる外来、病棟、地域連携担当者などが、相互に意見交換や情報共有ができてよかった」などの意見があった。講演内を今後活用できると97.5%が回答し、実践につながる有益な交流会であった。 3) 看護管理者の訪問看護研修の推進 「看護管理者のための訪問看護研修」の継続開催に向け、訪問看護総合支援センターにおいて実施できる体制を構築し24名が参加した。アンケート結果から「地域における自施設および看護管理者の役割理解」「地域が抱える医療、介護の課題について理解」の2点について、研修効果が高いことが示された。 2. 看護師職能Ⅰ委員会領域、看護師の実践能力向上への取り組み 第3回『新人・先輩看護師集まれ！二人三脚交流会』を開催し、新人・先輩看護師27組、オブザーバーとして6施設7名が参加した。研修の進行とともに意見交換は活発となり、先輩看護師と新人看護師の心理的距離感が縮まったと感じられる交流会であった。また参加者にとっては日頃他施設の看護師と交流する機会が少ないため、交流会の意見交換を通し良い刺激があった様子がうかがえた。研修効果を客観的に評価するため、「日本語版 Rosenberg 自尊感情尺度」を含む研修前後アンケートを実施した。 その結果、日本語版 Rosenberg 自尊感情尺度の平均値（標準偏差）は研修前24.3点（3.9）から研修後26.6点（4.1）へ上昇した。「お互いの理解」「関心」「身近な存在に感じる」の各項目で、研修後に肯定的回答が上昇し研修効果があったことが示された。また開催時期および時間が適切であったとの評価も得られた。研修目的は概ね達成できたと評価できるが、臨床現場において研修がどの程度活用されているかについては、各所属施設での評価を含めた長期的効果の検証が課題である。オブザーバー参加者による研修運営の見学を通じ、自施設研修へのブラッシュアップを期待したい。 新人看護師が入職前までに身に付けてほしい能力を、先行研究をもとに看護実践能力および社会人基礎力と捉え、質問項目を設定し交流会でアンケートを実施した。その結果、個人情報保護と社会人基礎力に対する関心が高いことが明らかとなった。兵庫県看護協会では個人情報保護に関する研修が実施されていないため、次年度の研修企画につなげることとした。
■今後の課題	病院領域における、課題に関する情報収集のあり方